

空き家・空き店舗が地域社会に与える影響に関する研究、コミュニティ・ビジネスに関する研究



地域イノベーション研究センター副センター長
経営学部 経営学科
大学院 環境経営研究科 経営学専攻
准教授

倉持 裕彌

KURAMOCHI, Hiromi

SDGs 関連項目



● 研究内容

地域社会を維持する仕組みに対する人口減少の影響について研究している。近年の主な研究テーマは2つある。一つは、空き家や空き店舗等が地域社会にどのような影響を及ぼすのか、について研究を進めている。これらの物件は、未利用（もしくは管理されない状態）であることによって、周囲の人々の生活や商売に悪影響を及ぼすことが直接的な問題である。場所によっては空き店舗が増えてもさほど問題にならない、という状況も現れてきている。もう一つは、コミュニティ・ビジネスに関する研究で、例えば買い物弱者対策などがある。人口減少が進むことで、様々な分野において従来のサービスが維持できなくなる可能性が高まり、その代替として新たなサービス供給のあり方が模索されている。過疎地の公共交通を支える自動運転バスのように技術的な議論も進みつつあるが、まずは丁寧な地域の実態調査と、それに基づく現行サービスの持続可能性の検証に取り組んでいる。

● 想定パートナー

自治体、地域協議会等、経済団体、商店街振興組合
小売業、不動産業

● 応用分野

空き家・空き店舗などの管理・利活用、買い物弱者対策事業など

● 取組実績

【企業、行政等との連携実績】

・鳥取県

持続的な「小さな拠点」のあり方と検討プロセスに係る研究
商店街の空き店舗を維持するための実証実験

・鳥取市

街なか空き家の実態調査と利活用の検討



空き店舗の利活用研究例